

ワークショップだより

Vol.4(平成 25 年 11 月) 発行:東浦町建設部都市計画課



第4回ワークショップでは、東浦町の景観資源図を検討し、景観づくりの基本方針について話し合いました。

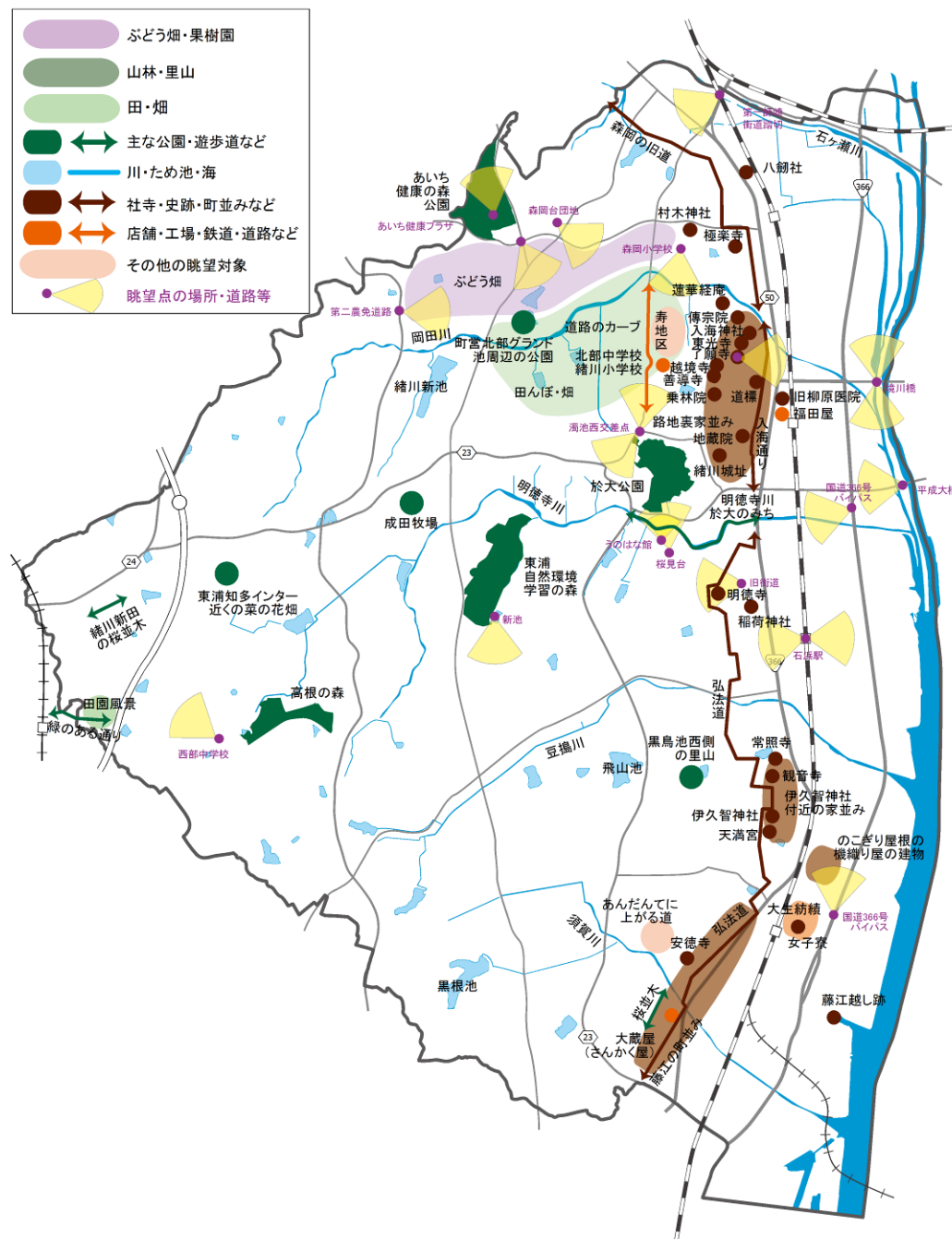
今年は寒さが急にやってきましたが、体調などを崩されてはいませんか？

「東浦町景観計画策定のワークショップ」は、10月26日に第4回目を開催しました。

今回は、これまでの意見交換や現地のまちあるき等をふまえて、グループごとに「景観資源図」を作成しました。また、東浦町の景観づくりをどのような考え方で行うべきかについて話し合いました。

参加者のみなさんの、東浦町に対する想いや愛着が強く感じられる意見も多く、景観づくりの重要性が改めて感じられました。

＜ワークショップの意見による景観資源図＞



＜景観づくりの基本方針に対する主な意見＞

東浦町が景観づくりに取り組む目的	<ul style="list-style-type: none"> ○東浦を自慢したくなる景観づくり。東浦への誇りや愛着を育む景観づくり。 ○東浦に住みたくなる、住み続けたい景観づくり。 ○子どもや孫に東浦の自然や歴史を伝え残す景観づくり。 ○東浦町の持続的な発展に貢献する景観づくり。 ○住む場所として魅力が高まる景観づくり。 ○東浦にふるさつを感じる景観づくり。 ○歩いて楽しめる景観づくり。
東浦においてどのような景観づくりを行うべきか	<ul style="list-style-type: none"> ○6つの地区ごとの拠点の景観を大切にする。 ○東浦にしかないものを景観づくりを通じて感じ取ってもらう。 ○グラデーションのある景観づくり。 ○緑豊かな自然と調和した景観づくり。 ○歴史を感じる景観づくり ○まちなかの小さなホッとさせる景観を保全する。 ○観光資源としての景観づくりを行う。
東浦における景観づくりのポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての住民が景観を自分ごとで考える。 ○景観を守りたいという想いを育てる。 ○子どもや住民が景観づくりへの関心を持つための取り組み。 ○自然での遊び方を教えながら、子どもたちに東浦の景観を伝える。 ○景観資源だけではなく、景観資源の周りを保全。 ○住民が入ることができる里山づくり。 ○古きを活かしたまちの再生（空き家を拠点施設として活用） ○緑の多い住宅地づくり。1人1本ずつ植栽する。 ○自然と共生し、里山や公園をネットワークさせる。 ○神社・寺院などの歴史資源を保全する。 ○昔のよいものを残しながら、現代風に活用する。 ○景観づくりを商店や商業の活性化につなげる。 ○観光振興と連携する。 ○景観に関する情報を発信する。景観づくりに取り組んでいる人をつなげる。 ○季節ごとの花や植物の見どころをつくる。 ○居心地のよい景観の視点場を整備する。
景観計画に記載すべきこと	<ul style="list-style-type: none"> ○景観づくり、景観を守るステップ。 ○景観資源を維持・保全・管理する手法。 ○景観づくりや景観保全に住民が関わるしくみづくり。 ○住民が東浦のよさに気付くためのしかけづくり。 ○東浦で大切にしたいゾーンを決める。

第5回は最終回となり、これまでの議論を踏まえ、景観資源図と景観づくりの基本方針案をとりまとめて、東浦町に提案します。

＜＜次の予定＞＞

【第5回ワークショップ】

11月30日(土曜日) 10時から12時 東浦町役場西会議室

「景観資源図と景観づくりの基本方針案をとりまとめる」

